

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700030		
法人名	有限会社 オレンジケア		
事業所名	グループホーム おれんじ友		
所在地	平戸市大島村前平2742-1		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①困っているご利用者やご家族の要望に応えられる施設でありたい。 ②ご家族が大切な家族を安心して預けられる施設でありたい。 ③入居者や家族にここでよかったと思っただけの施設でありたい。 ④ 誰もがまた来たくくなるような施設でありたい。

平戸港よりフェリーに乗船し約50分、的山大島の高台に当ホームはある。島の住民が互いに顔見知りの関係で、ホームの職員とも入居者と顔馴染みの関係にあり、入居者は安心してホームで生活できている。決して馴れ合いにはならずともホーム全体が1つの家族のように機能し、離島ならではの特性を活かしながら地域に密着したホームの役割を果たしている。日常の支援の中で排泄介助については自立に向けた支援に注力されており、羞恥心への配慮等、拘りと自信を持っていることが窺える。職員間で入居者の情報共有を徹底し、全職員が入居者の些細な事まで情報を把握するしきみを確立しており、その方針は職員に浸透している。母体法人は佐世保市内にあり、定期的に代表者がホームへ出向き、最新の情報を伝え運営に関する指導力を発揮している。コロナが5類へ移行後、地域との交流を再開しており、今後の更なる取り組み期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を共有し実践している。	事業所理念を共有し実践している。	ホームの理念を踏まえ、入居者一人ひとりを温かく見守り、人としてのプライドを傷つけず、初心に返り謙虚な気持ちで接するためにどのような支援が必要かを全体ミーティングで検討している。全職員が情報共有の徹底や入居者と同じ目線に立った、プライドを傷つけない言葉遣いで接するよう日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に合わせた行事計画を立てている。	地域の行事に合わせた行事計画を立てている。	コロナが5類に移行後、地域との付き合いを徐々に再開している。ふるさと祭り、学校の体育祭を車中より見学したり、交通パレード開催時には鼓笛隊がホームの玄関まで訪れたり、ホームのクリスマス会に青年団がサンタクロース役になり入居者へプレゼントを渡す等、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委化会において施設状況を報告したり広報誌により地域に知らせている。	推進委化会において施設状況を報告したり広報誌により地域に知らせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告するとともに、地域の滋養法を収集して活動計画に生かしている。	活動状況を報告するとともに、地域の滋養法を収集して活動計画に生かしている。	運営推進会議のメンバーは地区長、消防署出張所長、社会福祉協議会職員、平戸市役所職員、民生委員、家族2名で構成されている。議案やホームの状況報告等に沿って各メンバーから質問や意見が活発に出されており、その詳細は運営推進会議議事録に質疑応答形式にて残している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。	取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーとして市職員、社会福祉協議会職員が出席しており、それぞれの立場から意見や質問、助言を受けている。市役所での諸手続きには代表者や管理者が市の窓口に出向き、積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針の下に取り組んでいる。	身体拘束廃止指針の下に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会メンバーはホーム職員で構成している。同委員会は3カ月に1回開催し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。虐待や身体拘束に関する研修に職員が参加している。今後、身体拘束に該当する行為や、3原則、3ロックについて日常の支援の中でいつでも振り返りと確認ができるよう取り組むことを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングや毎月の研修計画に基づいて実施している。	毎月のミーティングや毎月の研修計画に基づいて実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料やパンフレットにより学習する機会を設けている。	資料やパンフレットにより学習する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明をしたうえで納得していただき計画をしている。	十分に説明をしたうえで納得していただき計画をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染症やインフルエンザ蔓延等、状況を見ながら面会に来られた時に意見や要望等を聞いたり、遠方の方については、電話等により意見聴取をするようにしている。	コロナ感染症やインフルエンザ蔓延等、状況を見ながら面会に来られた時に意見や要望等を聞いたり、遠方の方については、電話等により意見聴取をするようにしている。	職員は入居者の意見や要望等を日々の支援の中で把握している。現在、家族とは窓越しでの面会時や電話連絡時に意見や要望を聞き取っている。聞き取った内容はその場でメモに記録し、申し送りノートにて全職員が情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会等を設けたり、個人面談をするなど意見を聞き入れるようにしている。	職員会等を設けたり、個人面談をするなど意見を聞き入れるようにしている。	月1回の職員ミーティングを通じて職員が意見を述べる機会がある。個人面談やプライベートな相談は管理者や事務職員が聞いている。入居者の支援に関する意見等はいつでも話せる環境であり、必要に応じて意見を現場に取り入れ入居者支援の中で実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種可能な限り加算の申請をし、給与水準の向上に努めている。	各種可能な限り加算の申請をし、給与水準の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでなかなかできなかった研修だったが、今年は計画を立て実施できるように努めている。	これまでなかなかできなかった研修だったが、今年は計画を立て実施できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報共有できるように連絡を取り合っている。	情報共有できるように連絡を取り合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけアセスメントし、必要なことを聞き入れるようにしている。	時間をかけアセスメントし、必要なことを聞き入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の時状況確認し、要望に応えられること、家族と一緒にやっていかなければならないことなどを家族に伝え理解を得られるように努力している。	初回面談の時状況確認し、要望に応えられること、家族と一緒にやっていかなければならないことなどを家族に伝え理解を得られるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできること、支援が必要なことを分け、出ること、できた事への喜びを感じてもらえるような努力をしている。	自分でできること、支援が必要なことを分け、出ること、できた事への喜びを感じてもらえるような努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の心の支えは、家族が一番であるのでそのことを考えながら支援をしている。	利用者の心の支えは、家族が一番であるのでそのことを考えながら支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	住み慣れた自宅付近のドライブを楽しんでもらえるように支援をしている。	住み慣れた自宅付近のドライブを楽しんでもらえるように支援をしている。	入居者及び職員は地元出身の住民であり、職員は馴染みの関係を把握し支援に活かしている。入居者が以前住んでいた島内の家を見に出かけたり、ホーム前の幼稚園児が園庭で遊ぶ姿を見て楽しんでいる。小・中学校の運動会や体育祭を見学する等、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢化、重度化しつつも利用者同士のコミュニケーションが取れるように支援をしている。	高齢化、重度化しつつも利用者同士のコミュニケーションが取れるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ支援をしている。	必要に応じ支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングをしながら、本人施設職員で感じていることを組み入れていくように努めている。	モニタリングをしながら、本人施設職員で感じていることを組み入れていくように努めている。	日々の生活の中で入居者の発言や様子から思いを汲み取り、個人記録に残している。その記録は全職員と情報共有を徹底している。各入居者の拘りや特技を活かし、個別でレクリエーションに取り入れる等、モニタリング及び介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前項に同じ	前項に同じ		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや職員研修、ミーティングをとおり計画に反映させている。	モニタリングや職員研修、ミーティングをとおり計画に反映させている。	職員間の情報共有で把握したことや日常生活上の記録を基にモニタリングを実施している。計画作成担当者が介護計画の素案を作成した後、会議で職員が意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前項に同じ	前項に同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の思いを尊重しながらできることを組み入れた支援をしている。	一人一人の思いを尊重しながらできることを組み入れた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的に本んができることを減らさないようにという考え方で支援をしている。	基本的に本んができることを減らさないようにという考え方で支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の状態観察をして、異変時には主治医へ相談できるようにしている。	日々の状態観察をして、異変時には主治医へ相談できるようにしている。	島内には診療所があり、島民のかかりつけ医となっている。ホームの看護師を中心に診療所へ月に1回数ずつに分けて定期受診を支援している。主治医から紹介状を受け、島外の医療機関に受診が必要となった場合は家族が同行し、家族対応が難しい場合はホーム職員が同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤及び非常勤看護師で支援ができています。	常勤及び非常勤看護師で支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携はできている。	連携はできている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には当施設で支援できる、できないの説明をしているが、その都度都度で状態は家族や主治医へ連絡をしね判断、指示を頂くようになっている。	入居時には当施設で支援できる、できないの説明をしているが、その都度都度で状態は家族や主治医へ連絡をしね判断、指示を頂くようになっている。	入居時にホームでできる支援について入居者家族に説明している。経口栄養摂取ができなくなった場合には医師と相談し、紹介状を書いてもらった上で島外の医療機関へ移行することを本人や家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	離島であり、救急時の対応については、初動が大事であるため、早めの対応を心がけている。	離島であり、救急時の対応については、初動が大事であるため、早めの対応を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月の避難訓練を実施している。また、消防指導も受けている。日々の点検や月の点検も実施している。	毎月の避難訓練を実施している。また、消防指導も受けている。日々の点検や月の点検も実施している。	火災・自然災害等を想定した避難訓練を実施している。また、毎年9月1日の防災の日に地域の防災訓練に参加しており、地域住民とともに災害について交流する機会がある。	ホームでは昼間の火災を想定した避難訓練を実施しているが、夜間想定避難訓練を実施していないため、今後、夜間を想定した避難訓練実施と参加者の詳細が分かるよう記録に残すことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもとに実施している。	理念のもとに実施している。	職員はホームの理念の下、入居者に対し人としてのプライドを傷つけず、初心に返り謙虚な気持ちで接することを目標に掲げ日々の支援に努めている。年間研修計画を立て、接遇マナーに関する資料を基にロールプレイ形式で研修を実施し研鑽している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を 表したり、自己決定できるように働 きかけている	実施している。	実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切に、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援して いる	実施している。	実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃ れができるように支援している	注意して支援している。	注意して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一 人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や 食事、片付けをしている	食事は入居者の楽しみであると考え ているので常に意識しながら調理支 援をしている。	食事は入居者の楽しみであると考え ているので常に意識しながら調理支 援をしている。	ホームの菜園で収穫した野菜等、 食事には旬の食材を1品加え、副菜 やおやつに芋団子などの手作り料 理を提供している。入居者から食 べたいものの要望があった場合は、 職員の手作りにより提供するなど入 居者の嗜好に応じた支援に努めて いる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事提供の為専門業者へ依頼している。	バランスの取れた食事提供の為専門業者へ依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。	毎食後口腔ケアの実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできるだけトイレできるように支援をしている。	排泄はできるだけトイレできるように支援をしている。	職員は入居者がトイレで排泄することをあたり前であると捉え、羞恥心に気を配り、入居者それぞれに個別の排泄対応を行っている。職員は入居者に対しさりげない声かけと本人の意思を尊重した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や服薬でのコントロールをしている。	食事や服薬でのコントロールをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態を確認しながら本人の気分も含めタイミングを計りながら実施している。	状態を確認しながら本人の気分も含めタイミングを計りながら実施している。	入居者1人あたり、週2～3回入浴ができるよう支援している。体調不良や入浴を拒否する場合は、翌日に変更する等、本人の意思を尊重している。フロアと更衣室の温度差が分かるよう温度計を設置しヒートショック対策・予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師に相談支持をもらいながら支援している。	主治医や看護師に相談支持をもらいながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については、季節に合わせた郷土で楽しんでもらえるようにしている。	嗜好品については、季節に合わせた郷土で楽しんでもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の状態を見ながら支援をしている。	天気や本人の状態を見ながら支援をしている。	ホームでは入居者の気分転換のためドライブに出かけたり、季節の衣替え時には入居者の希望に応じて自宅に衣服を取りに行くなど外出を支援している。コロナ禍で外出する機会が減少していたが、今年は季節のつつじや紫陽花の花を見に行き写真を撮って家族に渡す等、徐々に外出する機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族管理としている。が、状態によっては管理可能な入居者もおられるので楽しみを持ってもらうためにも管理を許可している。	基本的には家族管理としている。が、状態によっては管理可能な入居者もおられるので楽しみを持ってもらうためにも管理を許可している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、過ごしやすい気温を保ったりして過ごしやすい環境づくりをしている。	季節の花を飾ったり、過ごしやすい気温を保ったりして過ごしやすい環境づくりをしている。	ホームの清掃は職員が毎朝入念に行い、清潔な共用空間を保持している。季節ごとの絵や入居者とともに作成した作品をフロアの壁に貼り、季節感のある明るい空間づくりができています。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1)	実践状況(ユニット名: 2)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で部屋で過ごす時間を少なくするため、できるだけリビングで過ごすように支援をしている。	一人で部屋で過ごす時間を少なくするため、できるだけリビングで過ごすように支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの環境づくりの手伝いをさせてもらっている。	利用者それぞれの環境づくりの手伝いをさせてもらっている。	入居時に居室への持ち込み品について家族へ説明している。寝具類は以前から慣れ親しんだ物を持参する入居者が多い。家族の写真や入居者が自ら作った作品を壁に飾ったり、その人らしい居室作りの支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の機能に応じ、できることをしながら暮らせるような作りになっている。	入居者の機能に応じ、できることをしながら暮らせるような作りになっている。		